

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104034		
法人名	(株)セービング		
事業所名	グループホーム小月		
所在地	山口県下関市小月宮の町7-3		
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果市町受理日	平成27年6月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれのユニットで、理念をつくり、朝礼時、全職員で唱和し理念に沿った支援を目指しています。入居者の方と一緒にメニューを考え、一緒に買い物に行き食材を選び、一緒に食事の用意をしています。また掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の片づけ等、入居者一人ひとりに合わせて、家で過ごしていたときと同じように、役割を持って生活できるよう支援しています。毎月、ご家族には広報誌「小月だより」と手紙を添え、生活の様子をお伝えしています。また毎月外出支援を計画し、外食や弁当と一緒に作ってのピクニックなど気分転換を図りながら楽しく過ごしていただいています。地域の行事(夏祭り・文化祭等)にもできる範囲で参加し、地域の中で、その人らしい生活ができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入しておられ、年2回の清掃活動に利用者と職員が参加されている他、地域行事の夏まつりや文化祭などにも参加されて、地域の人と交流しておられます。多くのボランティアの来訪や中学生の職場体験の受け入れや小学校からの交響楽団の演奏会への招待など、地域の人とつながりながら暮らし続けられるよう支援されています。家族とは馴染みの人や場所との関係継続支援の協力や年6回の家族会での大掃除などの行事参加への協力、介護計画作成時の話し合いなどを通じて、事業所での暮らしに家族が関われる機会づくりなどに取り組まれています。職員の段階や希望に応じて、外部研修を受ける機会の確保をしておられる他、内部研修では高齢者虐待や緊急時の対応などについての研修を実施しておられる他、山口県宅老所・グループホーム協会のブロック研修会にも参加しておられ、各職員のスキルアップに取り組まれ、職員が働きながらまなべる様に支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念をつくり、施設内に掲示している。朝礼時に理念を唱和し、支援方針を共有・実践できるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をユニット毎に作成し、事業所内に掲示している。朝礼時に唱和している他、日常の業務の中でも話し合い、共有して理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(夏祭り・文化祭等)への参加や、地域ボランティアの受け入れなど行っている。一昨年から中学生の職場体験も受け入れ、幅広い年齢層との交流ができています。近くのスーパーへ毎日買い物に行くことで、顔なじみとなり声をかけていただけるようになった。	自治会に加入し、年2回の清掃活動に利用者と職員が参加している。地域行事の夏まつりや文化祭、公民館のサークル活動に参加して、地域の人と交流している。ボランティア(生花、大正琴、マンドリン、コーラス、小月平家太鼓など)の来訪がある他、小学校から交響楽団の演奏会に招かれ、子供たちと交流している。中学生の職場体験の受け入れもしている。野菜や果物の差し入れがある他、散歩時や買い物時に地域の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症への理解を深めていただけるよう情報提供や勉強会を行っている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議で外部評価の意義を説明し、理解したうえで、職員一人ひとりが自己評価表に記入し、全員で話し合っている。この自己評価を日頃のケアを見直すきっかけとし、質の向上を目指している。	管理者は、評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布し、記入してもらい、ミーティング時に話し合いをして、管理者がまとめている。自己評価を通して職員はスピーチロックなどのケアの振り返りをしている。前回の評価結果を受けて、消防署の協力を得ての救急救命法を受講している他、内部研修で止血や転倒などの訓練をしているなど、具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の方に参加していただき、開催している。利用者の現状や行事等の報告をしている。そこで出た意見や助言、地域の行事の情報を提供していただきサービスの向上に活かせるよう、職員とも話し合っている。	2ヶ月に1回開催し、現状報告や行事報告、利用者の状況報告、避難訓練、外部研修結果報告をし、話し合いをしている。事業所の避難訓練に、地域の人に参加を呼びかけるチラシの配布など、協力を得られる体制づくりについてメンバーからの意見があり、話し合いをするなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課とは情報交換や日常の相談をさせていただいている。運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に参加していただき、評価や助言をいただいている。	市担当課とは、年1回の運営推進会議出席時に介護保険制度についての相談をしたり、介護保険の更新時に出向いて相談をしている他、電話で情報交換をするなど協力体制を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議時の情報交換の他、困難事例の相談、ブロック研修会時の情報交換などで連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活において、拘束のない言葉使いとケアを行うようにしている。職員間で気づかずに行っていることに関して意見交換をしている。玄関の施錠はせず、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	内部研修を実施し、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をしないで、外出を察知した時には、一緒に出かけたり、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては管理者が指導している他、職員間でも話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において虐待が行われることのないよう、職員研修を行っている。研修では「虐待」「パーソンセンタードケア」等について研修している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について研修に参加し、最善の支援ができるように努めている。成年後見制度は、内部研修に取り入れ学ぶ機会を設けている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には、わかりやすく十分な説明を行い、理解・納得していただけるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時や電話、家族会の時など家族の思いや相談を聞き、意見や苦情等を言いやすい関係をつくっている。意見・要望については、職員会議や運営推進会議で報告を行い、それらを運営に反映させている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きについて契約時に家族に説明している。運営推進会議時や家族会時、面会時、電話などで家族から意見や要望を聞く機会を設けている他、意見箱を設置している。遠出の外出についての要望があり、海響館等に出かけるなど反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り時に意見・提案を聞き、運営に反映させている。	代表者も出席する月1回の職員会議や朝夕の申し送り時などで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。新聞を読むのが好きな利用者のための新聞購読の提案や駐車場確保の要望について反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、頻繁に事業所を訪問し、職員の意見や思いを聞いている。行事や会議への参加など、多方面での協力がある。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議時に施設内研修を行い、職員の質の向上に努めている。 外部研修の情報を伝え、希望に応じて参加できるよう勤務等調整している。	外部研修は情報を回覧し、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をして、資料は回覧した後、職員が閲覧できるようにしている。希望の場合は、勤務調整をして参加の機会を提供し、復命報告をしている。月1回の内部研修では、高齢者虐待や止血、転倒、熱中症などの緊急時の対応についての研修を実施している。山口県宅老所・グループホーム協会のブロック研修会に参加している。新人職員は先輩職員について働きながら介護技術等が学べるよう支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会や交流会に参加し情報交換を行い、お互いのスキルアップ、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に耳を傾け、安心できる環境を整え、穏やかに生活していただけるよう、努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをしっかり聞き、不安のないよう、その都度解決方法を一緒に考え、信頼関係を築いていけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の話をしっかり聞き、思いを受け止め、必要なサービスを総合的な見地から見つめ、最善の支援ができるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間を大切にし、日々の生活の中で出来ることには参加していただき、共に支え合う関係の中で、自分らしい生活が出来るよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しては、ご本人の普段の様子は電話や手紙などで報告させていただき、その上で、ご家族の意見を取り入れた支援をさせていただいている。また、家族会では、ご家族と、ご本人が共に過ごせる時間を設けている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人がいつでも訪問や電話できるように対応している。また、訪問された時は、居室でゆっくり話が出来るよう配慮している。買い物等で外出した際、知人から声をかけられると、立ち止まって話が出来るよう配慮している。	親戚の人、孫、友人、近所の人 の来訪がある他、馴染みの美容院の利用、自宅周辺や昔の職場周辺へのドライブ、手紙や年賀状、暑中見舞状、電話などの支援、馴染みのスーパーでの買い物などの支援をしている。家族の協力を得ての外出や外食、外泊、馴染みの理容院の利用、法事や結婚式、葬式への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の様子をしっかりと把握し、お互いに思いやりを持って関わりがもてるよう、見守り、時には職員が間に入って良好な関係がもてるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、情報提供やご家族からの相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「センター方式」のシートを活用し、一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。	入居時に入居前のケアマネージャーからの情報や家族からの情報を、センター方式のシートに記録し、活用している他、日常の関わりの中で、生活の様子や気づきを「つぶやきノート」に記録したり、「私の姿と気持ちシート」にきろくして、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞き取り、職員間で話し合っ、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートやご家族から、本人の生活歴や好きだったこと、趣味などを聞き、また、日常生活での本人との会話の中で、把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートに1日の過ごし方、心身状態等を記録し、現状把握に努めている。小さな変化を見逃さないよう、申し送りや連絡帳等を活用し、全員で把握するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でケアカンファレンスを行い、日々の様子や家族の要望等を参考に、個々に合った課題や目標を決め、介護計画を作成している。	本人や家族の要望や主治医、看護師等の意見を参考にして、計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回、カンファレンスを開催して話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。家族の要望や利用者の状態の変化に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調や思いを24時間シートに記録・職員間で共有し、意見交換することによって、日々の対応や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状態の変化や認知症の進行度合い・ご家族の状況に合わせて柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院や公民館・スーパー・地域の方々の協力を得ながら、安全で豊かな社会生活を送ることが出来るよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療があり、訪問看護師の記録や毎日のバイタルチェックの状況等を提供している。 緊急時は、主治医と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者それぞれの医療機関や協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関から2週間に1回の訪問診療がある。他科受診を含めて家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時には訪問看護師による記録やバイタルチェックなどの情報を医師に伝えている。受診結果は連絡ノートに記入して職員間で共有している。緊急時にはかかりつけ医や協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック、24時間シートをもとに、関わりの中でとらえた情報や気づきを伝えて、助言をいただき、職員間で共有している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者との情報交換を十分に行っている。面談には、ご家族と共に参加し、ご本人の状態を把握し、退院後も安心した生活を送ることが出来るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合、終末期のあり方について、事業所の方針を説明している。重度化した場合は、本人、ご家族と話し合いながら、かかりつけ医と相談し、その指針を全員で共有していくようにする。	契約時に指針に基づいて事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、看護師等の関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて、方針を共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日中、見守りや声かけを強化し転倒、誤薬、行方不明などのないよう心がけている。今年度、全職員を対象に普通救命講習を受講している。	ヒヤリハット・事故報告書にその場にいた職員間で対応策を検討し、記録して、朝夕のミーティング時に確認して共有している。月1回の職員会議で再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、消防署の協力を得て普通救命講習を全職員が受講している他、内部研修で熱中症、誤嚥、止血、転倒などについて研修を実施している。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定を含めた避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施している。9月には家族にも声をかけ、訓練に参加していただいた。	年1回、消防署の協力得て、夜間想定避難訓練や消火、通報訓練を利用者や家族と一緒に実施している。事業所独自で年1回、業者の協力を得て、火災時の避難、通報訓練をしている。運営推進会議でメンバーの消防分団長より、自治会の人達への避難訓練参加を呼びかけてはとの提案について話し合い、チラシを配布し、自治会の顔馴染みの人からの参加の申し出や連絡網ができるなど、協力体制を築くように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーの確保について、職員研修を行い、礼節を守り、プライバシーを損ねないように言動に注意している。	内部研修で学んでいる他、日々のケアの中で話し合い、職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者が指導している他、職員間でも話し合いをしている。個人記録等は保管し、取り扱いに気をつけている。守秘義務については職員に徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自分らしく生活できるように、支援している。また、ご本人の意志を尊重し、自分のことは自分で決めることができるように適切な言葉かけをするよう心がけている。言葉での表現が難しい入居者は、表情を見逃さないように気を配っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業時間や、時間効率を優先することなく、入居者のペースに合わせて、思いに寄り添いながら支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選んで着ていただけるように配慮している。 毎月、訪問理容があり好みのヘアースタイル、ヘアカラーをされ、楽しまれている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、入居者の方と一緒に買い物に行き、旬の食材を使って調理している。入居者の方に何が食べたいか聞きながらメニューを考えている。調理の手伝い、後かたづけ等も一緒に行っている。	利用者と一緒に買い物に行き、好みを聞いて献立を立てている。差し入れの野菜や果物を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえや調理、盛り付け、配膳、下膳、テーブル拭きなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じものを食べ、味付けの話などをしながら食事をしている。季節の行事食やおやつづくり(ホットケーキ、ぜんざいなど)、誕生日のケーキづくり、焼肉パーティ、弁当持参での外出などの他、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調に合わせて、食事の量や栄養バランスに気をつけている。摂取量や水分量を記録し、1日を通じて、確保できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、誘導している。ご自分でできない方は、介助で行い、口腔内の清潔保持をしている。口腔ケアをしようとしないう方には、急かしたりすることなく、時間をおいて声かけする等の工夫をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	①なるべくトイレで排泄できるように定期的に時間を決めてトイレ誘導を行っている。表情や素振りを見逃さず誘導している。 ②トイレで排泄できるように排泄のパターンを観察し誘導している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りのヨーグルトを提供し、野菜を多く摂っていただけるようメニューを工夫している。散歩や体操など運動を行い便秘の予防に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の方の状態に応じて入浴を行っている。入浴したくない方は無理に入浴を勧めず、タイミングをみて声かけをしている。入浴されない方は、足浴や清拭を行っている。	入浴は14時から16時の間にゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴したくない人には職員を交代したり、時間の変更、声かけの工夫をしている。体調によって清拭、シャワー浴、足浴などの対応をしているなど、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境を環境を整え、一人ひとりの睡眠パターンに合わせて対応している。昼間でも、状況に応じて居室で休息できるように対応している。室温や湿度にも気をつけ、快適に眠ることができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬は服薬説明書に必ず目を通し、目的や副作用、用法について理解するようにしている。また、服薬後の状態の変化にも気をつけている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと、好きなことを見つけ、日常生活の中で役割を持って生活できるよう支援している。 入浴後や夕食後にノンアルコールビールを飲まれている。	掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、買い物、下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、下膳、テーブル拭き、食器洗い、おやつづくり、花の水やり、ゴミ捨て、新聞読み、日記をつける、テレビ視聴、習字、ぬり絵、ちぎり絵、折り紙、切り絵、かるた、トランプ、歌を歌う、脳トレ、書写、連想ゲーム、ビンゴゲーム、将棋、ボランティア(大正琴、マンドリン、ギター、フルート演奏、紙芝居)との交流などの他、家族と一緒にの大掃除など、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い物や近所の散歩に出かけている。月に1度の外出には、季節の花や外食を楽しんでいる。 また、家族の協力のもとでの外出も行っている。	近隣の散歩、買い物(ゆめタウン、サンパークなど)、地域行事(夏祭り、文化祭、公民館のサークル活動)への参加、りんご園、豊浦リフレッシュパーク、海峡ゆめタワー、美術館、海響館、竜王山、道の駅、回転寿司などへの外出の他、家族の協力を得ての外出、外泊、馴染みの理容院、結婚式や法事、葬式への出席など戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は所持金を待たれておらず、預かり金として、事務所で管理している。その中からご本人の必要とする物を購入している。 少額のお金を持たれている方は、外出時に、買いたい物を買えるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な方への年賀状や暑中見舞いのはがきを書いたり、必要に応じての電話をかける等の支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた静かな環境作りを心がけている。温度や湿度に気を配り、心地よく過ごせるよう配慮している。壁面には季節に合わせた装飾を入居者と共に作り、また、季節の花を生けたりと、季節を感じていただけるようにしている。	リビングには季節の花が生けてあり、窓からは新幹線が見えて話題になることもある。広い昼の間やテレビの前のソファは利用者が思い思いに過ごせる居場所となっている。壁には季節のちぎり絵や貼り絵、行事の写真が飾ってある。台所で食器を洗う利用者の姿や食後のひと時をゆったりと話をしている利用者の様子が窺えた。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、気軽に話をしたり、休憩したりと、自由に過ごせる空間を提供している。廊下には椅子を置き、談話等出来る空間を設けている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具、小物など、使い慣れた物を持ってきていただき、居心地よく過ごせるようにしている。また、家族や昔の写真を飾っている。	ベット、テレビ、机、椅子、時計、衣裳ケース、鏡台、ぬいぐるみ、加湿器、三段棚、花の鉢物、生け花、造花、本など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、手づくりのカレンダー、ぬり絵作品、家族写真を飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりを設置し、安全に異動できるようにしている。各場所にはわかりやすい言葉での表示をし、自分で出来るよう工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム小月

作成日：平成 27 年 6月 15 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員を対象に応急手当や初期対応の定期的訓練を継続する	職員一人ひとりが知識、技術を習得し、冷静に判断でき行動する。	内部研修で、緊急時の対応について、実際に実践を行う。また、外部研修に参加し、知識を身につける。書籍を購入し、全職員がいつでも見ることができるようにする。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。